

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成25年2月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(送料共)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

奈良、東大寺、そして診療情報管理

二階堂 雄次

市立奈良病院 院長 診療情報管理士
大阪会場 基礎課程(臨床医学各論Ⅳ) 講師

古都奈良で私が最も気に入っている散歩道は、東大寺大仏殿の東を歩いて、奈良の早春の風物詩である「お水取り」の行事が行われる二月堂を左に見つつ、法華堂(三月堂)と三昧堂(四月堂)の間を歩いて観音院の前に至る道である。司馬遼太郎は、「街道をゆく」の中で、「二月堂のあたりほどいい界隈はない。立ちどまってながめるといふより、そこを通りすぎてゆくときの気分がいい。」と書いているが、この道を歩くと、いつも心が和らぐ。

観音院を過ぎると再び東大寺中門に戻るようになるが、この東大寺は華嚴宗大本山である。大仏殿には、聖武天皇が国力を尽くして造営をした盧舎那大仏(るしゃなだいぶつ)が鎮まっている。盧舎那仏は「蓮華蔵世界」(『華嚴経』の説く世界観)の中心に位置し、大宇宙の存在そのものを象徴する仏であり、天平勝宝4年(752年)に開眼供養が行われたとされる。このような経過の詳細は、「東大寺要録」や「続日本紀」などの書物に記載されているという。つまり、過去の事実が適切に分かるのは、情報が残されているからである。

ところで、華嚴宗は仏教の一宗派であるが、仏教の宗派は「八百法門」といわれるように数多くある。それほど多くの教えが伝えられた理由は、確かな情報が残されなかったからにはほかならない。再び司馬遼太郎の文章を借りると、「仏教で分かっているただ一つのことは、釈迦が説いたものだけということだけである。その釈迦が何を説いたか、となると、実証的なことはすこしもわかっていない。」ということになる。つまり、釈迦の存世中にその教説は情報として(文字として)残されることなく、約100年を経て、伝えられる釈迦の言葉を集めて経典が編まれるようになった。しかし、それらの諸経典は、それぞれに矛盾する内容となっており、「すべての経典に通暁する人がいても、仏教とは何か、という明快な答えをひきだすことができない」のである。一方で、仏教の解釈がこのように様々でありながら、なお「仏教」という名称でまとめられるところに、釈迦という存在の大きさがあるともいえるのだが。

医療の世界においても、情報の記録と管理は極めて大切である。その役割を担う診療情報管理士の責務は重要である。皆さんと力を合わせて診療情報管理士の地位をさらに高めていきたいと思う。

